

発掘調査現地見学会

令和7年9月27日(土) 13:30 ~ 14:00

いやさかだいら

# 弥栄平(1)遺跡

当日配布資料

青森県埋蔵文化財調査センターでは、原型炉基盤整備事業の実施に先立ち、上北郡六ヶ所村大字尾駮字表館地内に所在する、弥栄平(1)遺跡で5月8日から発掘調査をしています。

弥栄平(1)遺跡は、六ヶ所村役場庁舎から南西へ約4km、尾駮沼と鷹架沼に挟まれた標高約60mの段丘上に位置し、東に太平洋を望みます。鷹架沼につながる南向きの谷沿いに縄文時代中期末葉から後期初頭(約4,000年前)を中心とした集落跡や狩猟場が確認されました。



弥栄平(1)遺跡と六ヶ所村周辺の遺跡



調査のようす

竪穴建物跡の炉を慎重に清掃し、写真を撮影する準備をしているところです。

青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市新城字天田内 152-15

TEL 017-788-5701

<https://www.ao-maibun.jp>



ホームページ



インスタグラム

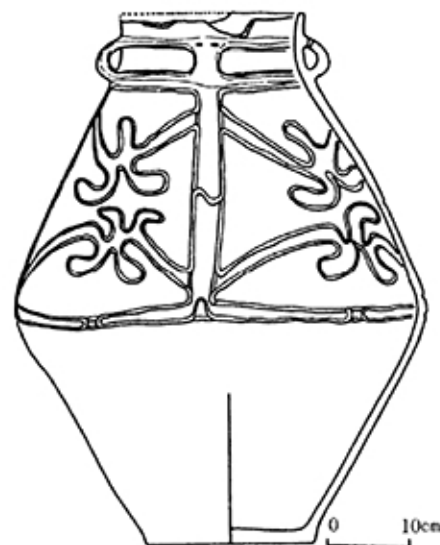
国土院発行の電子地図 25000 を加工して作成

## ■弥栄平（1）遺跡のこれまでの調査

本遺跡での調査は、今回のものを含めて、分布調査1回、試掘調査2回、発掘調査4回の計7回行われています。

本遺跡周辺は、もともと馬鈴薯の原産種農場として使用されており、農場職員がトラクターで耕作していたところ、縄文時代後期初頭の土器棺とその中に埋葬されていた成人女性の人骨を発見し、全国的に注目を集めた遺跡です。

→ れまでと今回の調査の結果、遺跡南部の鷹架沼に面した谷沿いに縄文時代中期末葉から後期初頭を中心とした竪穴建物跡やフラスコ状土坑、土器棺などが発見・調査され、その周辺では縄文時代の落とし穴などが分布することがわかりました。



昭和46年（1971）に発見された土器棺

葛西 1983「縄文中期、後期、晩期（墓制の変遷）」『青森県の考古学』より転載



頭蓋骨からの復顔

## ■弥栄平（1）遺跡で見つかった遺構

今回の調査では、縄文時代中期末葉から後期初頭を中心とした竪穴建物跡、掘立柱建物跡、フラスコ状土坑、溝状土坑、焼土遺構、柱穴などの多数の遺構が見つかっています。また、遺構の分布と重なるように土を盛り上げた盛土がつくられており、そこではもの送りなどのまつりが行われたと考えられる遺物の出土状況などが確認されています。

### 竪穴建物跡

地面を掘り込んでつくられた建物跡です。写真の建物跡は掘り込みの深さが1m以上もあるものです。炉は床面の壁際と中央に設置されるものの2種類があります。石で囲われた石囲炉と地面が赤く焼けただけの地床炉が確認されています。

柱穴は方形に4本配置されるものや壁際をめぐるものなどがあります。



竪穴建物跡

### 掘立柱建物跡

竪穴を伴わない、柱穴で構成される建物跡です。

4本柱、6本柱などで方形や六角形に配置されるものがありますが、本遺跡で確認されているのは、8本柱で六角形のものでした。



六角形に柱穴が配置されている

### フラスコ状土坑

袋状に掘られた穴で、木の実などの貯蔵施設や墓などに使われたと考えられています。

写真のように断面がフラスコのような形をしているためこのような名前がつけられています。



フラスコ状土坑の土層断面

## ■弥栄平（1）遺跡で見つかった遺物

縄文時代中期末葉から後期初頭の土器や石器のほかに、土偶などの土製品、石製品が出土しています。磨製石斧などが集中して出土する建物跡やアスファルトが入れられて埋められた土器、アサリやシジミ、カキなどの貝が集中する地点貝塚など、貴重な資料が確認されています。



土器の壺が口の部分を中心に放射状につぶれた状態で出土しました。



竪穴建物跡の床面に磨製石斧などの石器が集中していました。



二枚貝を中心とした貝の集中が発見されました。



土器にアスファルトを入れて埋められていました。